



今後に期待すること

公益財団法人 北海道スキー連盟
教育本部長 松本 徹

北海道スキー指導者協会が創立以来、60年の歴史を刻み、昨年は記念式典を盛大に実施され、これまでの活動の歩みを振り返りながら、61年目から以降の活躍を誓い合ったのが、ほんの少し前のような気がしますが、実は1年も経つていて時の過ぎ去る速さを実感するこの頃です。

今年は道東の阿寒で指導者協会の集いが予定され、参加できることを楽しみにしておりましたが、全日本スキー連盟の会議が入ってしまい、出席できなかつたことがとても残念です。

釧路は私が教員として赴任した最初の土地であり、リフトが着いたゲレンデで初めてスキーをしたことが、現在の私に結びついています。

夕張という雪が多い土地で育ち、スキーには慣れていきましたが、スキー場がコブだらけで、かつて経験したことの無い斜面を斜滑降とキックターンの連続で、今は無くなっている川湯のスキー場を何とか滑り降りたことが懐かしく思い出されます。

そして、私が指導者を目指した頃からはスキーが一大ブームとなり、各地でスキー場がオープンして、何処のスキー場もリフト待ちは当たり前の状況で、スキーの講習会も大盛況で講師不足が深刻で、指導者を目指す人がどんどん増えていった時期でした。その状況の中で、現在の指導者協会の前身である北海道基礎スキー指導員会が再開されたことは、意義深いものがあったと思います。

その後スキーのブームが去り、スキー場が閑散となっていく状況と共に、指導者の数も減少傾向に転じていますが、改称された指導者協会の会員の減少傾向は急激で、スキー連盟教育本部

と同じように指導者協会も大きな課題を抱えていることが伺われ、指導者の目をいかに組織に向かせるかが課題かと思います。

・・・・・

「組織は人なり」で、その活性化の重要なポイントは人であり、いかに人を育て、人をまとめ、人が活動することが大事なことだと思います。

幸いにして、私達の組織を構成する指導者は、素晴らしい能力を持ち、ボランティア精神も持ち合わせている方々が多く在籍します。

この方々の力を引き出すことが、組織活性化の一つのポイントだと思います。

・・・・・

北海道スキー連盟教育本部は、組織の公益法人化に伴い、これまでの外郭団体との協力、友好関係を強化し、教育本部の組織強化に結び付けたいと考えて、指導者協会、スキー学校協会、海外スキー振興協会を協力団体として位置付け、協力のあり方を検討してきました。

北海道指導者協会には、その第一弾としてベテラン研修会の運営実施に力を貸していただきたいと考えています。

教育本部としては、特別研修の一つとして計画しておりますが、実際の運営は指導者協会にほぼ全面的にお願いすることになろうかと思います。指導者協会所属のベテラン指導者の皆様方を数多く集めていただき、和気藹々の中で有意義な研修会が出来る事を期待しております。

今後、さらに強力な協力関係を築くために、情報交換を緊密に行い、良好な関係を築いていきたいものと考えます。